

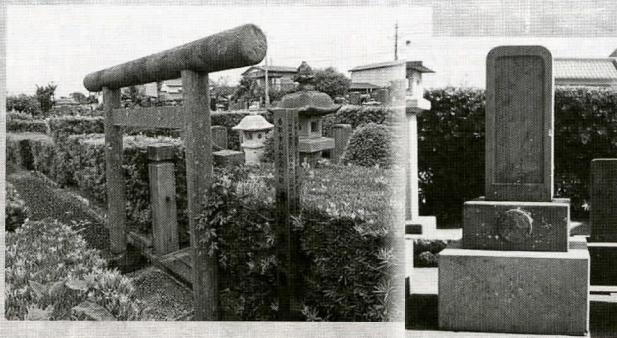
香取遺産

Vol.110

圓生涯学習課

☎(50)1224

江戸末期から明治初頭の漢学者
清宮秀堅



▶秀堅の墓



▲秀堅の詩碑



◀秀堅の生家

清宮秀堅は、文化6年(1809)10月1日佐原に生まれました。父の名前は武彦といい、詩、画をよくした文化人でしたが、文化14年(1817)33歳の若さで亡くなっています。

秀堅は幼くして父母と別れ、祖母に育てられました。幼名を秀太郎、後に総三郎と改め、通称は利右衛門、棠陰と号しました。父の影響によってか、幼い時から学問を好み、津宮の久保木竹窓、潮来の宮本茶村のもとで学んでいます。

27歳で名主となり、天保13年(1842)34歳で領主の津田氏に仕えました。以来二十年余り津田氏の財産を管理し、苗字帯刀を許されています。

秀堅は財政に秀でるばかりか地理にも詳しく、明治5年(1872)印旛県に出仕し、歴史、地理の講義、調査を行っています。翌6年新治県(現在の茨城県南部と千葉県東部)の地誌編集に従事し、香取、海上、匝瑳の三郡を探訪、「三郡小誌」

を著しています。また、私費を投じて佐原村をはじめ、付近17村の道路の改修を行い、新田開拓にも貢献しています。

秀堅は病で明治12年(1879)10月20日、71歳で亡くなるまでの間、多くの著書を残しています。

代表作「下総国旧事考」は、8冊15巻で、神祇・国造・国司・世紀・郡郷・名勝・金石・藝文、社寺、風俗などの諸資料を収めています。三十年余りの歳月を要して弘化2年(1844)に完成の後、佐原の正文堂書店から明治38年(1905)に出版されています。著書には旧事考のほか「新撰年表」「北総詩誌」「地方新書」「三家文鈔」「古学小伝」「香取新誌」などがあります。生前には詩碑があり、「北総詩誌」巻頭の詩が刻まれています。

秀堅の墓は、佐原の淨国寺にあり、入口に鳥居が建つ清宮家の墓所のほば中央にあります。昭和45年5月27日に市指定の史跡となっています。